

第三種郵便物認可 (毎月四日十四日廿四日三回發行)

# 縣報

第卅五號

明治卅四年三月廿四日

# 和歌山縣

○縣令

○和歌山縣令第二十五號

縣稅賦課規則施行細則縣參事會ノ議決ヲ經左ノ通定

但明治三十二年<sup>二</sup>月<sup>二</sup>縣令第六號同年<sup>三</sup>月<sup>三</sup>縣令第十二號明治三十三年<sup>三</sup>月<sup>三</sup>縣令第二十八號ハ本細則施行ノ日ヨリ廢止ス

明治三十四年三月十三日

和歌山縣知事 椿 素 一 郎

### 縣稅賦課規則施行細則

第一條 縣稅賦課規則稅ヲ納ムヘキ義務ノ生シタルモノハ即日所轄郡市長ニ届出ヘシ

但演劇興行遊藝所遊技場海面捕魚海面採砂、狩獵稅ヲ納ムヘキモノハ届出ヲ要セス  
第二條 前條ノ届書ニハ業目種別、年輪、住宅ト營業場工業場ト異ナルトキハ其所

在地名及ヒ縣稅課目課額ニ掲クル課稅ノ標準ニ該當スル事項ヲ記載スヘシ但年輪ハ第五條ニ依リ鑑札ヲ受クルニ要スルモノ、外記載ヲ要セス

第三條 私法人建物稅ヲ納ムヘキ義務ノ生シタルモノ、届書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 法人ノ名稱及營業ノ種目

二 建物所在地名地番

縣報第三十五號 明治三十四年三月廿四日 第三種郵便物認可

三、土地并建物坪數、家屋、倉庫、製造場、店舗其ノ他附屬  
 建物ノ坪數ヲ區別シテ記載スヘシ

四、建物賃貸價格

建物賃貸價格ハ國稅營業稅課稅標準ヲ價格ヲ記シ國稅ヲ納メサルモノニアリテハ營業用  
 ノ土地建物ノ借料ニ相當スルモノヲ以テ建物ノ賃貸價格トシ左ノ各號ニ依リ賃貸價格ヲ  
 算定スヘシ但住居ニ供スル建物其ノ他直接ニ營業ニ使用セサルモノト雖モ同一區域内ニ  
 アリテ法八ノ所有又ハ借入ニ屬スルモノハ總テ算入スヘシ

一、法人ノ借入ニ屬スル建物ハ何等ノ名義ヲ用ユルニ拘ハラズ土地建物ノ賃借上借主ヨリ  
 貸主ニ支拂フモノヲ以テ建物賃貸價格トス

二、法八ノ所有ニ屬スル建物右ハ無賃借人ノ建物ニアリテハ近頃借家ノ借料ニ照準シテ建  
 物賃貸價格ヲ定ムヘシ但近頃ニ照準スヘキ借家ナキトキハ其ノ土地建物ノ時價ヲ各別  
 ニ算定シ土地ハ其ノ百分ノ五建物ハ百分ノ十ヲ以テ建物賃貸價格トス

第四條 左ノ各目ニ該當スルモノハ所轄都市役所ニ於テ標札ヲ受ケ住宅店舖營業場工業場  
 等ノ見易キ位置ニ掲クヘシ

一、商業、工業、料理屋、待合茶屋、芝居茶屋、遊樂場、飲食店、湯屋、理髮人、遊藝師匠、市場、  
 遊技場、遊覽所、場所ヲ一定セルモノ、水車

第五條 左ノ各目ニ該當スルモノハ所轄都市役所ニ於テ標札ヲ受ケ之ヲ携帯スヘシ但營業  
 主家族、雇人ナシテ官商セシムル場合ハ營業主ニ於テ標札ヲ受ケ之ヲ携帯セシムヘシ  
 一、石、牛、馬、賣具、遊藝、小、相撲、行、内、併、賣、家、相、回、茶、馬、自、轉、車、死、牛、馬、取、扱、人、漁

業採漁ノ内管外來漁、海面遊漁、取貝、鮎漁、鰯漁、青海苔

二工業者、理髮人、遊藝師匠等ニシテ出稼スル者及露店ヲ開ク者

第六條 市場ニシテ日稅ヲ納ムヘキモノハ開業前日ニ所轄郡市長ニ届出ヘシ但豫定日數ノ

伸縮又ハ課稅標準ノ異ナルトキ亦同シ

第七條 居宿ヲ爲ス者ハ居役ノ前日其ノ數名及ヒ頭數ヲ帳簿ニ登記シ市町村長ニ差出シ其

ノ帳簿ニ捺印ヲ受ケ納稅レ所轄警察署又ハ分署ヘ居役届出ノ際納稅濟ノ證ヲ示スヘシ

第八條 左ノ各號ニ該當スルモノハ即日所轄郡市長ニ届出ヘシ但第四號ノ場合ハ双方ノ郡

市長ニ届出ヘシ

一廢業、死亡、物件ノ廢棄他府縣ヘ營業又ハ物件ヲ移轉

二課稅賦課規則第二十四條ニ該當スル事由ノ生シタルトキ及ヒ國稅營業稅法ニ依リ課稅

標準ノ届出ヲナシタルトキ

三改正名、課稅標準業目種別ノ異動増減及ヒ同郡市内ニ於ケル營業又ハ物件ノ移轉

四他郡市ヘ營業又ハ物件ノ移轉

營業又ハ物件ヲ讓受ケ納稅義務ヲ繼承セル場合ハ双方連署シテ届出ヘシ

死亡ノトキハ遺族又ハ親戚ヨリ届出ヘシ

第九條 前條第一項第一號第二號ニ該當スルモノハ標札又ハ鑑札ヲ返納シ第三號第四號及

第二項ニ該當スルモノハ標札又ハ鑑札ノ替換ヲ受クヘシ

第十條 標札又ハ鑑札ヲ亡失毀損シタルトキハ其ノ事由ヲ届出テ再渡ヲ受クヘシ

第十一條 賦稅ヲ納ムヘキ義務ヲ負フ者常ニ自宅ニ在ラサル場合ハ其ノ市町村内ニ納稅代理人ヲ定メ其ノ住所氏名ヲ市町村長ニ届置クヘシ

土地物件若ハ營業場所在地ノ市町村内ニ現住セサルモノモ前項ニ依リ其ノ土地物件營業場所在地ノ市町村内ニ納稅代理人ヲ定メ届置クヘシ

第十二條 府縣制第五百條ニ依リ納稅義務ノ生シタル者ハ納稅義務發生ノ初ニ過リ該期間ノ稅額ヲ一時ニ賦課スヘキモノトス

第十三條 遊藝師匠又ハ藝妓ニシテ下級地ニ於テ鑑札ヲ受ケタル者一時上級地ニ到リ營業シ若ハ下級地上級地ヲ通シテ營業セントスル者ハ上級地ノ鑑札ヲ受ケヘシ

第十四條 賦課期日阿荒地ヲナリ莫租出願中ニシテ其ノ處分未済ノ分ハ納稅ヲ延期スヘシ

第十五條 前各條中所屬郡長ニ差出スヘキ届書ハ總テ町村長ヲ經由スヘシ但居住外地ニ於テ業ヲナスモノハ其ノ地ノ市町村長ヲ經由スヘシ

第十六條 本細則第一條第六條第八條第一項第三號第四號第二項ノ届出又ハ第四條第七條第十條第十一條第十三條ノ手續ヲ怠リ若ハ詐偽ノ届出ヲ爲シタル者又第五條ニ依リ鑑札ヲ携帶セス又ハ携帶セシメサル者ハ十日以下ノ拘留又ハ一圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十七條 船車稅ニ關スルモノハ別ニ定ムル規定ニ依ル

第十八條 本細則ハ明治三十四年四月一日ヨリ施行ス

○和歌山縣令第二十六號

明治三十三年四月和歌山縣令第三十四號和歌山縣稅徵收細則中左ノ二ヶ條ヲ加ヘ從不ノ第一

條ヲ第三條トシ以下順次繰下ク

明治三十四年三月十五日

和歌山縣知事 椿 義一 耶

第一條 縣稅ノ徵收期ヲ定ムル左ノ如シ

前期 五月二十日ヨリ  
同月三十一日マテ

但地租割及船車稅ニ限リ四月二十日ヨリ同月三十日迄トス

年 稅

後期 十月二十日ヨリ  
同月三十一日マテ

月 稅 其ノ月十日マテ

日 稅 開業ノ前日

屠宰稅 屠殺ノ前日

鮎漁稅 六月十日ヨリ  
同月三十日マテ

鮎漁稅 鑑札交付ノ時々

牝鱒稅 十月一日ヨリ  
同月十五日マテ

狩獵稅 狩獵存狀交付ノ時々

營業稅及所得稅附加稅 本稅ノ納期日ニ同シ

但所得稅法第三條第二種ノ所得ニ對スル附加稅ハ利子拂渡ヲ受クヘキ期月ノ十五日

ヨリ其末日迄ヲ徵收期日トス

本條ノ各稅徵收期日後新ニ納稅義務ノ生シタルモノノ地租割戶數割ニ在テハ其翌月十日マ

テ營業稅雜種稅ニ在テハ鑑札又ハ標札交付ノ時々トス

第二條 臨時ニ追加スヘキ縣稅ノ徵收期日ハ其時々之ヲ定ム

○和歌山縣令第二十七號

和歌山縣高等女學校規則左ノ通相定ム

明治三十四年三月十六日

和歌山縣知事

椿

葉

一 郎

和歌山縣高等女學校規則

第一章 總則

第一條 本校ハ貞淑優良ノ婦女ヲ養成スルヲ以テ目的トシ本科及裁縫專修科ヲ置ク

第二章 學科課程

第二條 本科ノ學科ハ修身、國語、歷史、地理、數學、理科、家事、裁縫、習字、圖書、音樂、体操

トス其ノ課程左ノ如シ

學科	學年			
	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年
修身	三人倫、道德ノ要旨、作法	三全上	三全上	三全上
國語	六講讀、作文	五全上 文法	五全上	五全上
歷史	三本邦歷史	二全上	二全上 外國歷史	二外國歷史
地理	三内外地誌概要	二本邦地理	二外國地理	—

數學	三 整数、分数、小数 ノ加減乘除	三全上 比例	三 比例	二全上 幾何學初步
理科	二 動物、植物、礦物	二 物理、化學	二全上	一 人身生理 衛生
家事	一 衣食	一 食住 家内ノ取捨	二全上 兒女官經濟看護法	二 家庭教育及育 兒女官經濟看護法
裁縫	六 通常服裁縫	六全上	六 縫方	九全上
習字	二 楷書	二 行書	二 草書 名書	二 假名交リ草書
圖書	二 自來畫	一全上	一全上	一全上
音樂	一 單音唱歌	一全上	一全上 複音唱歌	一全上
体操	二 普通体操	二全上	二全上	二全上
計	三	三	三	三
第三學年	裁縫專修科ノ學科ハ修身、裁縫、國語、數學、家事、習字、音樂トス其ノ課程左ノ如シ			
學科	學年 每週 時數	第一學年 每週 時數	第二學年 每週 時數	第三學年 每週 時數
修身	二 人倫道德、要旨	二全上	二全上	二全上
裁縫	二一 或 簡單ナル日本服	二二 通常日本服	二二一 全上 小細工物	
國語	三 讀文	三全上	二全上	

數	學	二	筆算	珠算	一	筆算	度量衡貨幣	一	分數	小數
家	事	一	四則	一	一	珠算	食	一	食	住
習	字	一	楷行草	一	一	衣	家内ノ取掃	一	行	草
音	樂	一	單音唱歌	一	一	全上	廠名交リ草書	一	全上	全上
計		三〇		三〇		三〇		三〇		

第四條 本科及裁縫專修科生徒ニハ其志望ニ依リ一週一回若クハ二回授業時間ヲ差繰リ茶儀、生花ノ一科若クハ兩科ヲ授クルコトアルヘシ

第五條 修業年限ハ本科ヲ四ケ年裁縫專修科ヲ三ケ年トシ各一ケ年ヲ以テ一學年トス

第三章 學年、學期、授業時數及休業日

第六條 學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第七條 學年ヲ分チテ三學期トス第一學期ハ四月一日ヨリ八月三十一日ニ至リ第二學期ハ

九月一日ヨリ十二月三十一日ニ至リ第三學期ハ一月一日ヨリ三月三十一日ニ至ル

第八條 授業時數ハ每週凡三十時トス但夏期休業前後二十日間ハ便宜授業時數ヲ短縮スル

コトアルヘシ

第九條 年中休業日左ノ如シ

- 一、日曜日
- 二、大祭日、祝日
- 三、皇后陛下誕辰日
- 四、學校紀念日
- 五、夏期休業
- 自七月二十一日
- 六、冬期休業
- 自十二月二十五日
- 七、春期休業
- 自四月一日
- 至八月三十一日
- 至一月七日
- 至七月七日



第四章 入學退學等

第十條 生徒ノ入學ハ毎年一回學年ノ始ニ於テ之ヲ許ス其ノ人員期日等ハ豫メ之ヲ公告ス

但欠員アルトキハ臨時入學ヲ許スコトアルヘシ

第十一條 第一等級ニ入學セシムヘキモノ、學力檢定ハ高等小學校第二學年ノ課程ヲ卒リ

タル志願者ニ對シテハ其ノ修業證書ニ依リ其ノ他ノ志願者ニ對シテハ試驗ニ依ルヘシ

高等小學校第二學年ノ課程ヲ卒リタル志願者ハ其ノ他ノ志願者ニ先ダテテ入學ヲ許スヘシ

但高等小學校第二學年ノ課程ヲ卒リタル志願者ノ數募集人員ニ超過スルトキハ仍ホ試験ニ依リテ入學者ヲ撰拔スヘシ

第十二條 第一等級ノ入學試驗ハ高等小學校第二學年ノ課程ヲ卒リタルモノニ對シテハ讀書、作文、習字、算術ニ就キ其ノ他ノ志願者ニ對シテハ尙ホ日本歴史、日本地理ヲ加ヘ高等

小學校第二學年卒業ノ程度ニ依リテ之ヲ行フヘシ

第十三條 第二等級以上ニ入學セシムヘキモノハ相當年齡ニ達シタルモノニ就キ前各學年

ノ程度ニ依リ試験ノ上之ヲ選定ス

第十四條 入學志願者ハ左式ノ願書ニ履歷書ヲ添ヘ差出スヘシ

入學願

入學願

族籍、身分何誰何女(姉妹)等

氏 名

生 年 月 日

右之者今般御校本科第何年級へ入學爲致度候間御許可被成下度同人履歷書相添へ  
此段相願候也

年月日

和歌山縣高等女學校長宛

履歷書

右何ノ誰父(兄)職業

氏

名印

族籍

氏

名

生年月日

學業

一尋常小學校

何年何月何尋常小學校ニ入り  
何年何月卒業

一高等小學校

何年何月何高等小學校ニ入り  
何年何月第何學年修業

一其他ノ學校

何年何月ヨリ何年何月マテ  
何所ニ於テ何々修業等

賞詞

一何年何月何ノ廉ニ依リ何ノ賞(或ハ罰)ヲ受ク

右ノ通相違無之候也

年月日

右氏

名印

第十五條

入學ノ許ヲ可得タルモノハ保證人ヲ定メ左式ノ證書ヲ差出スヘシ

在學證書

族籍身分何誰何女(姉妹)等

氏

名

生年月日

右ノ者今般御校ニ入學御許可相成候ニ付テハ御校規則ヲ遵守シ勤學セシムヘキハ勿論猥  
トニ退學等爲致問敷且本人ニ關スル一切ノ事件ハ私ニ於テ渾テ引受可申候仍テ證書差出  
候也

年月日

族籍身分職業

右何ノ誰父(兄)

氏

名

印

族籍身分職業

右保證人

氏

名

印

和歌山縣高等女學校長宛

第十六條

保證人タルヘキ者ハ和歌山市内ニ居住シ丁年以上ノ男子ニシテ一家ノ生計ヲ營  
ムモノニ限ル

保證人タルヘキ者ハ和歌山市内ニ居住シ丁年以上ノ男子ニシテ一家ノ生計ヲ營

第十七條 保證人ハ其ノ保證スル生徒ニ關シテハ學校ニ差出ス願届等ニ用ユル印ヲ定メ其ノ印鑑ヲ差出スヘシ

第十八條 本人又ハ保證人ニ於テ住所又ハ戶主等ニ異動アルトキハ速カニ届出ツヘシ

第十九條 生徒疾病又ハ止ムヲ得サル事故ニ依リ退學セントスルトキハ其ノ事由ヲ詳記シ保證人ヨリ願出ツヘシ

第二十條 生徒疾病其ノ他ノ事故ニ依リ一週間以上欠席セントスルモノハ日數ヲ豫定シ事由ヲ具シテ保證人ヨリ届出ツヘシ

第二十一條 生徒左ノ各項ノ一ニ觸ル、モノハ除名ス

一 何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ハラズ引續キ一ケ年以上欠席シタルモノ

二 正當ノ理由ナクシテ引續キ一ケ月以上欠席シタルモノ

三 出席常ナラサルモノ

四 學術進歩ノ見込ナキモノ

五 保證人其ノ義務ヲ盡サ、ルモノ

六 授業料ノ怠納三ケ月以上ニ及フモノ

### 第五章 學業認定及証書

第二十二條 生徒ノ卒業又ハ進級ヲ認定スルハ平常並ニ試験ノ成績ニ依ル但修身中ノ作法國語中ノ作文、習字、裁綴、圖畫、音楽、体操ハ試験ヲ須ヒス平常ノ成績ニ依ル

第二十三條 生徒ノ學業成績ハ平素ニ於テ便宜之ヲ調査シ別ニ時期ヲ定メテ一時ニ試験ヲ

施行セス

第二十四條 每學年級ノ課程ヲ修了シタルモノニハ第一號書式ノ證書ヲ授與シ全科卒業ノ

者ニハ第二號書式ノ證書ヲ授與ス

第二十五條 卒業ノ際在學中ノ成績ヲ檢シ其ノ學術優等ナリト認ムル者ニハ第三號書式ノ

證明書ヲ授與ス

第一號書式

修業證書

校印

道廳府縣華士族平民

氏

生 年 名 月

右ハ當校本 裁縫專修科 第何年級ノ課程ヲ修了セリ依テ茲ニ之ヲ証ス

和歌山縣高等女學校

番 號

年 月 日

第一號書式

卒業證書

校印

道廳府縣華士族平民

氏

名

生 年 月

右ハ當校所定ノ本科課程ヲ履修シ其ノ業ヲ卒ヘタリ依テ茲ニ之ヲ証ス

和歌山縣高等女學校校長氏名印

番 號

年 月 日

第三號書式

証 明 書

道廳府縣華士族平民

氏 生 年 名 月

校 印

(本科卒業生)  
(縫裁專修科卒業生)

右ハ當校在學中ノ成績ヲ査定シ其ノ學術優等ナルコトヲ証明ス

和歌山縣高等女學校校長氏名印

番 號

第 六 章 學 資 及 授 業 料

第二十六條 生徒ノ學資ハ總テ自辨トス

第二十七條 授業料ハ本科生ハ一人一ヶ月金八十錢、縫裁專修科生ハ一人一ヶ月金五拾錢ト

シ、毎月二十日マテニ納付セシム但納付期日ハ事宜ニ依リ臨時變更スルコトアルヘシ

第二十八條 學校ニ於テ全一ヶ月間休業シタルトキハ其ノ月分ノ授業料ヲ徴收セス

第二十九條 新ニ入學セシ生徒其ノ月十六日以後ニ係ルモノハ其ノ月分ノ授業料ヲ半額トス

### 第七章 賞 罰

第三十條 左ノ一項若クハ數項ニ該當スルモノハ之ヲ賞ス

一、品行方正

二、學力優等

三、學業勲勵

四、其ノ他特ニ賞スヘキ行爲

第三十一條 校則命令ニ違背シ若クハ品行不良等ニシテ生徒ノ本分ヲ誤リタルモノハ其ノ輕重ニ依リ左ノ罰科ニ處ス

一、拘止(通學生)又ハ禁足(寄宿生)

二、停學

三、放校

### 第八章 職員、職務ニ關スル規程

第三十二條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク

學校長

教諭

助教諭

舍監

書記

第三十三條 學校長ハ知事ノ命ヲ受ケ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ統督ス

第三十四條 教諭ハ學校長ノ指揮ヲ受ケ生徒ノ教授ヲ掌ル

第三十五條 助教諭ハ教諭ノ職掌ヲ助ケ

第三十六條 舍監ハ教諭助教諭ノ中ヨリ之ヲ兼任シ學校長ノ指揮ヲ受ケ寄宿舎ヲ監理ス

第三十七條 書記ハ學校長ノ指揮ヲ受ケ庶務會計ニ従事ス

第三十八條 學校長不在ノトキハ首席教員ヲシテ代理セシム

第三十九條 教諭以下ノ職員ハ雇テ以テ代用スルコトアルヘシ

第九章 附則

第四十條 生徒心得、寄宿舎規程、生徒服裝規程、生徒校外住宿規程、試験ニ關スル規程等本則實施ニ關シ必要ナル細則ハ學校長之ヲ定メ知事ノ認可ヲ受ケヘシ

○和歌山縣令第二十八號

明治三十四年一月本縣令第七號ハ廢止ス

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

明治三十四年三月十六日

和歌山縣令第二十八號參照

明治三十四年一月本縣令第七號ハ長崎縣ニ於テ牛疫發生ニ付豫防ノ爲メ同縣ヲ發シ又ハ通過シタル牛、羊、山羊及其生皮骨肉ヲ本縣下ニ搬入スルコトヲ停止スル事項ノ件

○ 告 示

○和歌山縣告示第四十五號

和歌山縣知事 椿 莖 一 郎



警視廳ヨリ左記ノ廳令及告示發布ノ旨通知アリタリ

明治三十四年三月十四日

和歌山縣知事 椿 泰一 耶

警視廳令第十二號

牛疫豫防ノ爲左ノ地域内ニ牛、羊、豚ノ出入往來並病毒傳播ノ疑ヒアル物品ノ運搬ヲ停止ス  
本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

明治三十四年三月八日

警視總監安業兼道

一下谷區花園町十一番地ヨリ西北ニ本郷區根津宮永町通駒込千駄木坂下町ヨリ團子坂ニ出  
テ右ニ批把橋ヲ渡リ下谷區谷中三崎町通谷中町巡查派出所ニ三崎南町上野櫻木町護國  
院ニ沿ヒ花園町巡查派出所左ニ花園町十一番地先ニ至ル地域内

警視廳告示第三十號

東京市下谷區谷中真島町一番地牛乳搾取所白岩吉良方ニ於テ乳牛十三頭牛疫ニ罹リ撲殺セ  
リ

明治三十四年三月八日

警視總監安業兼道

○和歌山縣告示第六十六號

北淡濱廳河西支廳本年二月一日火災ニ罹リ書類悉皆焼失候趣ヲ以テ左ノ各號ニ該當スルモ  
ノハ本年五月三十一日迄ニ其手續ヲ爲スヘキ旨通知アリタリ

明治三十四年三月十五日

和歌山縣知事 椿 葉一 耶

第一 本年三月一日以前ニ回支廳ニ照會シタル事件ニシテ應答未済ニ係ルモノハ更ニ照會

スヘシ

第二 本年二月一日以前ニ同支廳ニ出願セタル事件ニシテ其指令ニ接セサルモノハ更ニ出願スヘシ

第三 明治三十三年十月一日ヨリ本年二月一日迄ニ國有土地（明治十九年六月閣令第十六

二十六號北海道國有未開地處）水面ノ貸付及使用ニ付同支廳ノ許可ヲ得タル者ハ其指令

分法ニ依リタルモノヲ除ク書又ハ命令書ノ謄本ヲ添ヘ同支廳ニ届出ツヘシ

第四 本年二月一日以前ニ於テ明治十九年六月閣令第十六號及明治三十年三月法律第二十六

號北海道國有未開地處分法ニ依リ十萬坪以下ノ土地ノ賣拂付與及貸付ヲ得タル者ハ左ノ

區別ニ依ル

閣令第十六號第三條及法律第二十六號第三條ニ依リ貸付許可ヲ得タル者ハ指令書ノ謄本

及起業方法書ヲ提出シ該方法書ニ對シ同支廳ノ認可ヲ受クヘシ

法律第二十六號第四條第六條第七條ニ依リ賣拂付與及貸付ノ許可ヲ得タルモノハ指令書

ノ謄本ヲ添ヘ同支廳ニ届出ツヘシ

第五 前第三號第四號ニ依リ届出ヘキモノニシテ指令書又ハ命令書ヲ亡失シタル者アルト

キハ其許可ヲ得タル事實ヲ証スルニ足ヘキ証憑書類ヲ添ヘ届出ツヘシ

第六 指令書又ハ命令書ノ謄本ヲ提出スルトキハ其原本ヲモ添付スルヲ要ス但原本ハ謄本

ト照合済ノ上還付セラルヘシ

○和歌山縣告示第四十七號

本年<sup>三</sup>海軍教育本部告示第一號ヲ以テ海軍兵學校生徒募集ノ義告示セラル就テハ志願ノ者ハ各其ノ所管郡市役所町村役場ヲ經テ願書當廳ニ差出スヘシ但シ願書ハ本年六月十日限リ兵學校長ニ到着ヲ要シ候條其見込日數ヲ豫定シ遲滯セサル様注意スヘシ

明治三十四年三月十五日

和歌山縣知事 椿 莪 一 耶

○和歌山縣告示第四十八號

明治三十四年度和歌山縣歳入歳出追加豫算府縣制第六十八條第一號ニ依リ縣參事會ノ議決ヲ經左ノ通定ム

明治三十四年三月十六日

和歌山縣知事 椿 莪 一 耶

明治三十四年度和歌山縣歳入歳出追加豫算

歳 入

經 常 部

第九款 雜收入 金百九拾七圓參拾八錢貳厘

伊都市收入

第一項 請願調査費納付金 金百九拾七圓參拾八錢貳厘

歳 出

經 常 部

第一款 警察費 金百九拾七圓參拾八錢貳厘

第一項 俸給及諸給

金百七拾參圓八拾九錢五厘

第二項 廳 費

金貳拾參圓四拾八錢七厘

○和歌山縣告示第四十九號

明治三十四年度蠶業講習會設置ノ位置區域日割等本縣蠶業講習會規則第十一條ニ依リ左ノ通り相定ム

明治三十四年三月十六日

和歌山縣知事 椿 義一 郎

蠶業講習會位置區域及日割

位置	區域	期	間
有田郡田殿村	田殿村、藤並村	自明治三十四年四月五日 至全	七十二日間
日高郡南部町	南部町	自明治三十四年六月十八日 至全	十四日間
有田郡岩倉村	岩倉村	自明治三十四年七月一日 至全	十四日間
日高郡野口村	野口村	自明治三十四年七月六日 至全	十四日間
有田郡宮崎村	宮崎村	自明治三十四年七月十九日 至全	十四日間
日高郡丹生村	丹生村	自明治三十四年七月廿四日 至全	十四日間
全 郡由良村	由良村	自明治三十四年八月六日 至全	十四日間
西牟婁郡田邊町	田邊町、湊村、西ノ谷村、稻成村	全	全

全郡上秋津村	上秋津村、秋津川村	自明治三十四年八月九日	全	十四日間
全郡朝來村	朝來村、北富田村、生馬村	至全	全	
全郡江住村	江住村、和深村	自明治三十四年八月卅日	全	十四日間
東牟婁郡三津ノ村	三津ノ村、高田村	至全	全	
全郡下太田村	下太田村、上太田村	自明治三十四年九月十七日	全	十四日間
全郡三里村	三里村	至全	全	
海草郡和佐村	和佐村	自明治三十四年十月五日	全	十四日間
全郡雜賀村	雜賀村、和歌浦町、岡田村、雜賀崎村	至全	全	
全郡紀伊村	紀伊村	自明治三十四年十月廿一日	全	十四日間
全郡紀三井寺村	紀三井寺村、三田村	至全	全	
全郡有功村	有功村	自明治三十四年十一月七日	全	十四日間
全郡木ノ木村	木ノ木村、貴志村	至全	全	
那賀郡西貴志村	西貴志村	自明治三十四年十一月廿四日	全	十四日間
全郡東野上村	東野上村、志賀野村、中野上村、南野上村	至全	全	

全 郡朝淵村 朝淵村

全 郡中貴志村 中貴志村、丸瀬村

全 郡龍門村 龍門村

全 郡池田村 池田村

全 郡紛河町 紛河町

伊都郡見好村 見好村

全 郡笠田村 笠田村

全 郡山田村 山田村

全 郡隅田村 隅田村

全 郡學文路村 學文路村

○和歌山縣告示第五十號

明治二十三年法律第七十七號第一條ニ依リ縣參事會ニ於テ議決シ内務大臣ノ許可ヲ經テ有

田郡宮崎村ヲ箕島町トス

明治三十四年三月十六日

○和歌山縣告示第五十一號

自明治三十四年十二月十一日 至全 年十二月廿四日 十四日間

全 全 自明治三十五年一月四日 至全 年一月十七日 十四日間

全 全 自明治三十五年一月廿一日 至全 年二月三日 十四日間

全 全 自明治三十五年二月十四日 至全 年二月廿七日 十四日間

全 全 自明治三十五年三月三日 至全 年三月十六日 十四日間

全 全

全 全

全 全

全 全

和歌山縣知事 椿 蒸 一 郎

和歌山縣第一中學校德義分校ヲ和歌山縣德義中學校ト改稱シ明治三十四年四月一日ヨリ開校ス

明治三十四年三月十九日

和歌山縣知事 椿 莪 一 郎

○和歌山縣告示第五十二號

左記ノ道路爾今公用ヲ廢止ス

明治三十四年三月二十日

和歌山縣知事 椿 莪 一 郎

和歌山市三番丁三番地通リヨリ全市四番丁五番地通リマテ

一道路坪數七百四拾參坪參勾

○和歌山縣告示第五十三號

警視廳ヨリ左記ノ通り告示ノ旨通知アリタリ

明治三十四年三月二十日

和歌山縣知事 椿 莪 一 郎

警視廳告示第三十四號

本年二月一日ヨリ同二十八日ニ至ル流行性鶯口瘡發生ノ數左表ノ通

明治三十四年三月十二日

警視總監 安 榮 兼 道

區 那 名	從二月一日至二月廿八日 新患數	同 上 ノ 全 治 數
芝	三	三
本 所	一三	三

深川		一
北豊島		二
計	一八	九

○和歌山縣告示第五十四號

栃木縣ヨリ左記ノ縣令發布ノ旨通知アリタリ

明治三十四年三月二十日

和歌山縣知事

椿 義一 耶

栃木縣令第二十八號

牛疫豫防ニ關スル事項左ノ通定ム

但本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

明治三十四年三月十日

栃木縣知事

溝 部 維 幾

第一左記ノ地方ヲ發シ若クハ通過セタル牛生牛生羊ノ輸入ヲ停止ス

但瀛車積ノ儘經過スルモノハ此限ニアラス

東京府下 東京市

第二前項ノ地方ヲ發シ若クハ經過セタル牛羊ノ生皮生肉生骨ヲ輸入スルモノハ左ノ手續ニ

從フヘシ

一 生皮生骨ハ十二時間以内ニ所轄警察官署ニ届出二十四時間以上石灰乳ニ浸漬スヘシ

二 生肉ハ屠殺地ニ於ケル検査官又ハ警察官吏ノ證明書ヲ添ヘ所轄警察官署ニ願出検査ヲ



受クヘレ

第三前項以外ノ地方ヨリ生牛生羊及其生皮生肉生骨ヲ輸入スルトキハ原産地ノ市町村役場

又ハ警察官吏ノ證明書ヲ添ヘ二十四時間以内ニ所轄警察官署ニ届出ヘレ

○和歌山縣告示第五十五號

佐賀縣ヨリ左記ノ縣令發布ノ旨通知アリタリ

明治三十四年三月二十日

和歌山縣知事 椿 蒸 一 郎

佐賀縣令第二十七號

明治三十一年七月内務省令第六號取扱細則左ノ通定ム

明治三十四年三月九日

佐賀縣知事 關 清 英

第一條 省令第二條ノ觀覽料徴收願ニハ左ノ事項ヲ詳具スヘシ

一 觀覽場所

二 觀覽物名

三 觀覽期限

四 觀覽料金

五 觀覽料徴收ノ事由

六 觀覽人心得

第二條 省令第三條及全第四條ノ寄附金又ハ負債募集願書ニハ省令第五條各號ノ外向左ノ

書類ヲ添付スヘシ

一 募集金支出概算書

二 重ナル工事ニ在テハ其設計目論見書、並、圖面

第三條 省令第三條二項及全第四條ニ依リ當廳ヲ經由セス内務大臣ノ許可ヲ受ケタルモノ

ニシテ自ラ其募集ニ從事セントスルトキハ其願書並指令書ノ寫ヲ添ヘ當廳ニ届ケ出ツヘ

レ

前項ノ募集者他人ヲシテ其募集ニ從事セシムル場合ニ於テハ認可願書ニ省令第七條ノ事

項ノ外向募集願書、並、指令書ノ寫ヲ添付スヘレ

第四條 省令第六條ニ依リ當廳ヲ經由セス内務大臣ノ許可ヲ受ケタルトキハ其願書、並、指

令書ノ寫ヲ添ヘ直ニ當廳ニ届出ツヘレ

第五條 左ノ一ニ當ルモノハ寄附金又ハ負債募集者若クハ從事者タルコトヲ得ス

一 瘋癲、白痴者

一 重罪ヲ犯シタル者

一 窃盜、詐偽取財、及贓物ニ關スル罪ヲ犯シ處刑ヲ受ケタル者

一 破産若クハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者

第六條 第一條ノ事項ヲ變更セントスルトキハ其事由ヲ詳具シ知事ノ許可ヲ受クヘレ

第七條 觀覽料徴收又ハ寄附金若クハ負債募集者ハ其許可ニ關スル願書及指令原書若クハ

寫ヲ常ニ携帯スヘシ

他人ヲシテ前項ノ募集ニ從事セシムルトキハ各自ニ許可ニ關スル願書、並、指令書寫及從

事者認可ニ關スル願書、並、指令原書又ハ寫ヲ常ニ携帯セシムヘシ

第八條 郡市町村吏員又ハ警察官吏ニ於テ募集ニ關スル書類ノ閲覧ヲ求ムルトキハ之ヲ拒

ムコトヲ得ス

第九條 觀覽料、徵收寄附金又ハ負債募集若クハ省令第六條等ノ願届ハ總テ神社、寺院、佛

堂並法人事務所在地ノ郡市町村長ヲ經テ差出スヘシ

附 則

第十條 第三條及第四條ニ依リ届出ヲ要スルモノニシテ本規則施行前既ニ着手シタルモノ

ハ同條ニ準シ此際速ニ届ケ出ツヘシ

○和歌山縣告示第五十六號

農商務省京都職業講習所ニ於テ本年八月中瘧病消毒法ノ講習ヲ開始シ今所別科生卒業生相當以上ノ學力ヲ有スル者ノ内ヨリ本縣ニアリテハ一名ヲ選定シ入所ヲ許ス旨通知アリ企望者ハ本年五月三十一日限り履歷書相添ヘ願書當廳ヘ差出スヘシ

但講習期日ハ追テ告示スヘシ

明治三十四年三月二十日

和歌山縣知事 椿 義 一 郎

瘧病消毒法講習規程

第一條 瘧病消毒法講習ハ毎年一回東京、京都兩職業講習所内ニ之ヲ開ク

第二條 講習生ハ地方ニアリテ職業獎勵ノ局ニ當リ或ハ職業ニ關係シ經驗ヲ有スル者ニシ

テ地方長官ノ選定シクル者トス

第三條 講習生ノ定員ハ各所五十名以内トシ府縣觀當人員ハ東京京都蠶業講習所長之ヲ定

第四條 講習期限ハ概二十日間トシ八九月中ニ於テ之ヲ開ク

第五條 消毒ニ要スル物品ハ之ヲ貸與スヘシト雖モ其他ハ總テ講習生ノ自辨トス

第六條 講習課程左ノ如ク

- 一 蠶病論大意
- 一 微生物學大意
- 一 消毒藥品論
- 一 消毒法
- 一 消毒實習

第七條 始業ノ時日及其他講習ニ關スル事項ハ東京京都蠶業講習所長之ヲ定ムルモノトス  
○和歌山縣告示第五十七號

明治三十四年度和歌山縣德義中學校及教育資金并市町村立小學校教員加俸資金歳入歳出豫算府縣制第六十八條第二號ニ依リ縣參事會ノ議決ヲ經左ノ通定ム

明治三十四年三月二十日

和歌山縣知事 椿 兼 一 郎

明治三十四年度和歌山縣德義中學校歳入歳出豫算

歳 入

第一款 雜收入 金貳千四百九拾五圓

第一項 授業料 金貳千四百七拾五圓

第二項 雜入 金貳拾圓

第二款 寄附金 金五十六百圓

第一款 教育費寄附 金五千六百圓

歲入合計金八千九拾五圓

歲出

第一款 和歌山縣立德義中學校費 金八千九拾五圓

第一項 俸 給 金六千五百四拾圓

第二項 雜 給 金七百七圓

第三項 退職給與 金參拾圓

第四項 國庫納金 金六拾圓

第五項 校 費 金六百五拾八圓

第六項 修繕費 金百圓

歲出合計金八千九拾五圓

歲入

第一款 教育資金 金五千六百貳拾九圓拾五錢貳厘

第一項 教育資金 金四百八拾圓

第二項 教育資金利子

金百六拾四圓

第三項 前年度繰越金

金四千九百八拾五圓拾五錢貳厘

歲出

第一款 教育資金 金五千六百貳拾九圓拾五錢貳厘

第一項 貸付金 金四千圓

第二項 教育獎勵下付金 千六百貳拾九圓拾五錢貳厘

明治三十四年度市町村立小學校教員加俸資金歲入歲出豫算

歲入

第一款 市町村立小學校教員加俸資金 金貳萬四百五拾圓

第一項 小學校教員加俸資金國庫下渡金 金壹萬五千圓

第二項 小學校教員加俸資金利子 金百五拾圓

第三項 前年度繰越金 金五千參百圓

歲出

第二款 市町村立小學校教員加俸資金 金貳萬四百五拾圓

第一項 小學校教員年功加俸金 金壹萬七千七拾八圓

第二項 小學校教員特別加俸金 金參千參百七拾貳圓

○和歌山縣告示第五十八號

明治二十三年法律第七十七號第一條ニ依リ縣參事會ニ於テ議決シ内務大臣ノ許可ヲ經テ東  
牟婁郡古座村ヲ古座町トス

明治三十四年三月二十日

和歌山縣知事 椿 莚 一 郎

○和歌山縣告示第五十九號

三十三年十一月十七日北海道廳令第百一號ヲ以テ北海道未開地處分法施行規程ヲ北海道未  
開地處分法施行細則トナシ條文別紙ノ通り改正シタル旨通知アリタリ  
明治三十四年三月廿二日  
和歌山縣知事 椿 莚 一 郎

(別 紙)

北海道廳令第百一號

明治三十二年<sup>三</sup>月北海道廳令第十九號北海道國有未開地處分法施行規程左ノ通り改正ス

明治三十三年十一月十七日

北海道廳長官 男爵 園田 安賢

北海道國有未開地處分法施行細則

第一條 處分法第三條ニ依リ貸付スヘキ土地ハ區畫ヲ施設シ之ヲ告示スヘシ

區畫外ノ土地ト雖モ特ニ區域ヲ定メ貸付スルコトアルヘシ

宅地ニ供スル土地又ハ沿海ノ土地ハ前二項ニ拘ハラス貸付スルコトアルヘシ

第二條 處分法第三條ニ依リ土地ノ貸付ヲ受ケントスル者ハ第一號書式ノ願書ニ起業方法

書圖面及戶籍抄本ヲ(現在人名ヲ記載シタルモノ)添ヘ北海道廳長官ニ差出スヘシ  
十萬坪以上ノ貸付願書ニハ官廳公署又ハ會社等ノ證明アル財産調書ヲ添付スヘシ

前項ノ外法人ニ在リテハ定款ノ組合ニ在リテハ契約書ヲ添付スヘシ  
但シ公共團體ハ此限ニアラス

貸付地豫定存置ノ許可ヲ受タルモノニシテ本條ノ貸付ヲ受ケントスルハ戸籍抄本及

第二項第三項ノ書類ヲ添付スルヲ要セス處分法第三條ニ據リ拾五万坪以上ノ貸付ヲ受ケ

ントスルモノニシテ小作開墾法ニ依ルモノハ其小作人ヲ府縣ヨリ募集スヘキモノトス

第三條 處分法第四條第六條第七條第八條ニ依リ土地ノ賣拂付與貸付若クハ交換ヲ受ケ

トスル者ハ第二號書式ノ願書ニ圖面ヲ添ヘ北海道廳長官ニ差出スヘシ

處分法第七條貸付ニシテ其使用目的ニ依リ樹木ヲ伐採シ其他地上ニ多少ノ變更ヲ來スモ

ノハ願書ニ其方法ヲ詳記スヘシ

第四條 處分法第十五條ニ依リ擔保又ハ賣買讓與ノ許可ヲ受ケントスル者ハ第二號書式ノ

願書ニ第二條ノ附屬書類ヲ添付シ當事者連署ノ上北海道廳長官ニ差出スヘシ

第五條 貸付中ノ土地ヲ返還セントスルトキハ第三號書式ノ願書ニ圖面ヲ添ヘ北海道廳長

官ニ差出スヘシ

但シ著手以前ニ於テ全地ノ返還ヲ爲サントスルトキハ届出ヘシ

第六條 土地ノ賣拂付與貸付交換出願中ノ者若クハ貸付ヲ受ケタル者ニシテ左ノ事項ノ一

ニ該當スルトキハ本人又ハ相續人後見人若クハ管理人ヨリ北海道廳長官ニ届出ヘシ

一 死亡失踪相續又ハ改氏名シタルトキ  
二 住所又ハ後見人若クハ管理人ニ異動ヲ生シタルトキ



前項届書ニハ住所ニ異動ヲ生シタル場合ノ外戸籍抄本ヲ添付スルヲ要ス

第七條 處分法第三條ニ依リ貸付シタル土地ノ付與ヲ受ケントスル者ハ第四號書式ノ願書

ヲ北海道廳長官ニ差出スヘシ

第八條 處分法第三條第三項ニ依リ付與スヘキモノハ開墾若クハ植樹ノ目的ヲ以テ貸付シ

タル土地又ハ牧畜ノ目的ヲ以テ貸付シタル土地ニシテ開墾スヘキ部分ニ限ルモノトス

前項付與出願ノ場合ハ左ノ標準ニ依ルヘシ

但シ毎回出願ノ地積ハ五千坪ヲ下ルコトヲ得ス

三萬坪未滿 一 回

十萬坪未滿 二 回

十萬坪以上 三 回

第九條 處分法第三條ニ依ル貸付地ノ貸付期間ハ左ノ標準ニ依ルヘシ

但シ處分法第九條第二項ニ依リ特別ノ期間ヲ以テ貸付スルノ必要アルモノハ此限ニア

ラス

五千坪未滿 三年以內

一萬五千坪未滿 五年以內

三萬坪未滿 六年以內

六萬坪未滿 八年以內

十萬坪未滿 九年以內

十萬坪以上

十年以内

第十條 開墾ヲ目的トスル貸付地ニ在リテハ風防風致又ハ薪炭用材林地トシテ其地積十分ノ二以内ヲ存置スルコトヲ得

第十一條 處分法第五條ニ依リ競争賣拂ヲ爲サントスルトキハ少クトモ十五日以前三日以上公示スヘシ

第十二條 土地ノ賣拂付與貸付交換ノ處分其他土地調査ニ關シ實地ニ當事者ノ立會ヲ要スル爲メ當該官吏ヨリ通知ヲ爲シタルトキハ當事者ハ之ニ立會スヘシ

第十三條 土地ノ賣拂付與貸付交換ヲ受ケントスル者ニシテ前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ立會前ニ其土地ノ境界ニ假標杭ヲ建設スヘシ

但シ第一條ニ依ル區畫地ハ此限ニアラス  
處分法第十條ニ依リ成功程度點檢ノ際ハ其成功區域ニ標杭ヲ建設スヘシ

前二項ノ標杭ハ其土地ノ賣拂付與貸付交換ノ處分ヲ了ル迄之ヲ存置スヘシ  
第十四條 土地ノ賣拂付與貸付交換其他ノ處分ニ關シ隣接地ノ境界調査ヲ必要トシ當該官吏ヨリ其所有者又ハ關係人ニ實地立會ノ通知ヲ爲シタルトキハ所有者若クハ關係人ハ之

ニ立會スヘシ

第十五條 法律上ノ無能力者ハ第十二條第十四條ノ立會ヲ爲スコトヲ得ス  
第十六條 土地ノ賣拂付與貸付交換ノ許可ヲ受タル者ハ指令書受領ノ日ヨリ三十日以内ニ

第五號様式ニ依リ土地ノ境界ニ標杭ヲ建設スヘシ

天災其他避クヘカラサル事故ニ因リ前項ノ標杭ヲ建設スルコトヲ得サルトキハ期間ヲ定メ顯出許可ヲ受クヘシ

本條ノ標杭ハ左ノ期間内之ヲ存置シ亡失毀損ノ場合ハ更ニ建設スヘシ

一 貸付地ハ貸付期間内

二 賣拂付與交換地ハ十箇年

第十七條 處分法第十條第一項ニ依リ貸付地ヲ返還セシムル場合ニ於テ主タル事業ヲ成功セシテ從タル通路堤塘濠渠建造物等ノミヲ營造シ又ハ成功程度點檢後ニ於テ成功シタル土地ハ未成功トシテ之ヲ處分ス

處分法第三條ニ依リ貸付シタル土地ニシテ成功程度ノ點檢ヲ爲シタルモノト雖モ其土地荒廢ニ屬シタリト認ムルトキハ未成功トシテ之ヲ處分ス

處分法第十條ニ依リ貸付地ノ一部ヲ返還セシメタルトキハ殘有地ノ貸付期間ハ其返還ヲ命シタル日ヲ以テ滿了シタルモノトス

第十八條 處分法ニ依ル土地ノ貸付其他ノ期間ハ左ノ起算方ニ依ルヘシ

一 處分法第三條ニ依ル土地ノ貸付期間ハ許可ノ翌年ヨリ起算ス

二 處分法第四條第七條ニ依ル土地ノ貸付期間ハ許可ノ翌月ヨリ起算ス

三 處分法第十二條ノ期間ハ處分ヲ爲シタル翌日ヨリ起算ス

第十九條 左ノ事項ノ一ニ該當スルモノハ其出願ヲ無効トス

一 土地ノ賣拂付與貸付交換處分ノ組合ニ於テ第十二條第十三條第一項ニ違背シタル事

二 土地ノ賣拂付與貸付交換又ハ担保、賣買、讓與ノ場合ニ於テ本人若クハ代理人ノ居所不明ニシテ六十日ヲ過クルモ尙ホ其指令書ヲ下付スルヲ得サルトキ

三 土地ノ賣拂、付與、貸付、交換又ハ担保、賣買、讓與出願者ニシテ調査ノ爲メ當該官廳若クハ官吏ノ召喚ニ對シ期限内ニ出頭セサルトキ又ハ居所不明ナルトキ

四 願書ノ訂正ヲ命シタル後指定期間ニ訂正願書ヲ差出サ、ルトキ

第二十條 左ノ場合ニ於テハ其處分ヲ取消スコトアルヘシ

一 第二條ノ貸付又ハ第四條ノ賣買讓與ノ願書ニ既ニ貸付ヲ受ケタル土地ヲ記載セズシテ許可ヲ得タルトキ

二 第二條第五項ニ違背シタルトキ

第二十一條 土地ノ賣拂付與貸付交換出願ノ者若クハ土地ノ貸付ヲ受ケタル者ニシテ地元戶長役場部内(戶長役場ノ設ケナキ地ハ支廳直轄部内)ニ居住セサルトキハ其部内ノ居住者ヲ代理人ニ定メ双方連若ノ上所轄支廳ニ届出ヘシ

第二十二條 處分法第十條第十一條第十二條第十三條ニ依リ土地ノ返還ヲ命シ若クハ處分ノ取消ヲ爲シ又ハ役木代價ノ辨償ヲ命シタルトキ本人若クハ代理人ノ居所不明ニシテ六十日ヲ過クルモ尙ホ命令書ヲ下付スルヲ得サルトキハ其返還取消又ハ辨償ヲ命シ了リタルモノトス

第二十三條 處分法第三條ニ依ル貸付地ノ貸付期間ハ其目的及方法ヲ變更スル場合ト雖モ伸長スルコトヲ得ス

但シ第九條ノ貸付期間標準ニ違ヒサル者ニ限リ特ニ其標準違伸長ヲ許可スルコトアルヘシ

第二十四條 處分法第十一條ノ評定價格及同法第十三條ノ伐木代價ハ北海道廳長官又ハ北海道廳支廳長ノ撰定シタル評價委員ノ評定ニ依ルヘシ

同法第十一條ノ直接費用ヲ辨償スルニ際シ本人ノ申立ヲ不當ト認ムルトキハ前項評價委員ノ評價ニ依ルヘシ

第二十五條 處分法第十五條第三項ニ依リ擔保又ハ賣買讓與スルコトヲ得ル場合ハ同法第

三條ニ依リ貸付シタル土地ニシテ左ノ事項ノ一ニ該當スルモノニ限ル

一 相續又ハ分家シタルトキ

二 天災其他避クヘカラサル原因ニ基ク故障アルトキ

三 轉居轉業又ハ疾病ニ因リ當初ノ目的ヲ達シ難キトキ

四 小作人ニ其小作セル貸付地ノ權利ヲ移轉セントスルトキ

五 貸付期間内全地成功シタルトキ

第二十六條 本則ニ依ル願届書ハ出願地所轄ノ支廳ヲ經由差出スヘシ

但シ特別ノ規定アルモノハ此限ニアラス

第二十七條 左ニ掲クル事項ノ一ニ該當スル者ハ三日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ一圓

以上一圓九十五錢以下ノ料料ニ處ス

一 第十三條第二項第十六條ニ違背シタルモノ

二 土地ノ賣拂付與貸付交換ヲ受ケタル者ニシテ第十二條ニ違背シタルモノ

三 正當ノ事故ナクシテ第十四條ニ違背シタルモノ

四 第十三條第十六條ノ標杭ヲ移轉シ又ハ撤去毀損シタル者若クハ境界ヲ變更シテ其標

杭ヲ建設シタルモノ

第一號書式

一 未開地貸付願

何國何郡何町村字何々番地(又ハ何原野何條何番地)

一 未開地 何坪 何目的

外

貸付地何坪内 成功地何坪

但シ何年何月何日何國何郡何町村何番地ニ於テ何目的ヲ以テ貸付ヲ受ケ何年何月迄

成功ノ豫定

貸付出願地 何坪

但シ何年何月何日何國何郡何町村何番地ニ於テ何目的ヲ以テ貸付出願中

土地貸付ノ許可ヲ受ケタルモノ又ハ土地貸付出願中ノモノナシ

右北海道國有未開地處分法第三條ニ依リ貸付相成度處分法施行細則ヲ遵守シ別紙起業方法書圖面及戶籍抄本又ハ相添へ此段奉願候也

何府縣北海道何國何郡何町村何番地

年月日

北海道廳長官宛

第一號書式二

起業方法書

(耕地ノ例)

當時何府縣北派遺何國何郡何町何村何番地寄留

其印

(代理ヲ以テ出願スルモノハ委任狀若クハ其勝手ヲ添へ後見人  
ヲ以テスルモノハ戶籍吏ノ證明書ヲ添付スヘシ以下之ニ同シ)

一 何國何郡何町何村何々番地(何原野何線何番地)

二 未開地何坪

三 樹木ノ種類員數トキハ種別ヲ要セス(草原地ニシテ樹木ナシ)

四 目的地目

五 方法ノ要領

六 小作人トノ契約

七 事業配當程度

初年何坪田又ハ畑ニ開墾此費用何程 三百坪ニ對シ何程ノ割

但シ家族何人雇人何名若クハ小作人何戸ヲ以テ開墾

建物何々 何棟何坪 此費用何程

右構造方法何々充用目的何々

鐵路 幅何間 何坪 此費用何程

右開鑿方法何々充用目的何々

灌溉水又ハ排水溝 幅何間 何坪 此費用何程

右同上 水ノ引用及排出ハ其設計ヲ  
明記シ且ツ圖面ニ示スヘシ

起業費小計何程

二年以下前年ノ例ニ依ル

起業費合計何程

八 存置地 何坪

但シ何々目的樹木ノ種類員數何々

注 意

- 一 十萬坪以下ノモノハ第五項第六項ヲ省略シ第七項中年別配當坪數ノ外記載ヲ要セス
- 二 十五萬坪以上ノ貸付ヲ受ケ小作開墾ヲナスモノハ方法ノ要領中ニ其小作人ヲ府縣ニ  
ヲ移注セシムル旨記載スルモノトス
- 三 小作ハ一戸ニ付實際ノ開墾地(道路排水)等ヲ除ク(一萬五千坪以内ノ割トナシ其地積ヲ五箇年  
以内ニ起業配當スルモノトス)
- 四 貸付地ノ成功程度ハ一年ヲ以テ一期トシ之ヲ配當スルモノトス
- 五 小作ハ成功年數ノ六分ヲ經過スル以前ニ其餘數ヲ入レ了ルモノトス



六 十萬坪未滿ハ貸付期間ノ前半期ニ於テ該地積ノ五分以上ヲ成功スルモノトス  
自作農法ヲ以テスルモノハ十萬坪以上ノ分ト同シ

七 十萬坪以上ハ貸付期間ノ前半期ニ於テ該地積ノ四分以上ヲ成功スルモノトス

八 貸付期間奇數ナルトキハ其年數ヨリ一箇年ヲ減シ其殘ヲ二除シテ得タル數ニ更ニ一  
年ヲ加ヘタルモノヲ前半期トスルコトヲ得

九 泥炭地其他ノ土地ニシテ特殊ノ起業ヲ要スルモノハ前各項ニ據ラサルコトヲ得

十 特殊ノ事業ニ係ルモノハ明細ナル起業設計書ヲ添付スルモノトス

十一 第四第五第六第七第八ハ他ノ起業ニモ準用スルモノトス

十二 各書式ニ適例ナキ方法書ハ各書式ノ體ニ倣ヒ要領ヲ掲グルモノトス

第一號書式三

(宅地ノ例)

一、二、三、四 第一號書式ノ二ニ倣フヘシ

五 建物使用ノ目的

六 事業配當程度

初年土地何坪成功

建物何々 何棟何坪

右構造方法何々

二年以下前年ノ例ニ依ル

第一號書式四

(牧場ノ例)

一、二、三、四 第一號書式ノ二ニ倣フヘシ

五 方法ノ要領シ飼料ハ如何ナル方法ニヨリ供給スルカ又種畜ノ種類及其購入ノ地方等

六 事業配管程度  
初年 何坪成功 此費用何程

俱シ建物敷地又ハ牧草畑地等成功地ノ類別ヲ掲グヘシ

牧棚又ハ土壘 延長何間 此費用何程

右仕様

建物何々 何棟何坪 此費用何程

右仕様

飼 畜 三才以下 牝何頭 此飼養料金何程

飼 畜 四才以上 牝何頭

内

購 入 三才以下 牝何頭

購 入 四才以上 牝何頭 此購入代金何程

購 入 三才以下 牝何頭 此販賣代金何程

販賣

四才以上 牝何頭  
牝何頭

生産 牝何頭  
牝何頭

牧夫其他使用人夫延人員何人 此費用何程

右常雇又ハ臨時雇ノ區別及賃銀

起業費小計何程

二年以下前年ノ例ニ依ル

起業費合計何程

注意

- 一 放牧場耕地建物敷地道路排水敷地及牧柵土塋等ノ位置ハ圖面ニ明記スルモノトス
- 二 放牧地ハ土塋牧柵又ハ排水溝等總テ施設ヲ了スヘキ最終年度ニ其坪數ヲ記入スルモノトス

第一號書式五

(植樹ノ例)

- 一、二、三、四 第一號書式ノ二ニ倣フヘシ
- 五 方法ノ要領 全地悉皆何々方法ヲ以テ刈拂ヒ何々方法以テ植栽ス其苗木ハ何々ノモノヲ用ヒ植付地刈拂ヒ手入補植ハ何々方法ヲ以テ何年間繼續シ新植樹ハ何年目ニ止ム
- 六 事業配當程度

初年 何坪

苗圃 何坪 此費用何程

新植地 何坪 此費用何程  
刈拂費何程  
植付費何程

植樹種類何々何本

右混植純植ヲ明記シ純植法ヲ以テ數種ノ植付ヲナストキハ其坪數及本數ヲ掲記  
シ且フ圖面ニ其區域ヲ示スヘシ

起業費小計何程

二年 何坪

苗圃 何坪 此費用何程

新植地 何坪 此費用何程  
刈拂費何程  
植付費何程

植樹種類何々何本

補植及手入刈拂地何坪 此費用何程  
補植費何程  
手入刈拂費何程

右補植種類何々何本

起業費小計何程

三年以下前年ノ例ニ依ル

起業費合計何程

注意

一 一坪一本以上ノ割ヲ以テ植樹スヘシ補植ハ前年植樹數ノ二割ヲ見込ニ貸付期限終了前

少クモ二年以前ニ新植ヲ了スルモノトス

二三寸以下樹木地又ハ柴地ナルトキハ第三ニ其樹木ノ重モナル種類及他日天然ニ成林

スルノ見込アルヤ否ヤヲ明記スルモノトス

三 第一號書式七ノ圖面ニ毎年新植スヘキ區域ヲ明記スルモノトス

四 植樹目的ノ樹種ト同種ノ天然性稚樹アルトキハ之ヲ存置シテ仕立ルコトヲ得

第一號書式六

(海産干場ノ例)

一、二、三、四 第一號書式ノ二ニ倣フ可シ

五 漁業許可ノ有無 何年何月何日指令第何號ヲ以テ何業許可セラレタルモ未ダ海産干場ヲ所有セス又ハ何年何月何日何々漁業出願中

六 方法ノ要領 何網何放何船何隻其他何々ヲ以テ漁業ニ従事ス

七 事業配當程度

初 年 何坪成功

建物何々 何棟何坪

右構造方法何々充用ノ目的何々

何網何船 網何放 船何隻

二年以下前年ノ例ニ依ル

右ノ通り相違無之候也

年月日

右願人

何

某印

第一號書式七

(別紙圖面)

第二號書式一

未開地貸付權利擔保(賣買)(讓與)(願

何國何郡何町村字何々番地(又ハ何原野何線何番地)

一 未開地 何坪 何目的

但シ明治何年何月何日指令第何號ヲ以テ貸付許可ノ分

外ニ

貸付地 何坪内 成功地何坪 未成功地何坪

但シ何年何月何日何國何郡何町村何番地ニ於テ何目的ヲ以テ貸付ヲ受ケ何年何月迄

成功ノ豫定

貸付出願地 何坪

但シ何年何月何日何國何郡何町村何番地ニ於テ何目的ヲ以テ貸付出願中

土地貸付ノ許可ヲ受ケタルモノ又ハ土地貸付出願中ノモノナシ

右北海道國有未開地處分法第十五條ニ依リ何々(事由ヲ詳記スヘシ)何々ニ付擔保(賣買)(讓與)致度

ニ付許可相成度處分法施行細則ヲ遵守シ財產調查及戶籍抄本何々相添へ此段奉願候也

(賣買讓與ノ場合ハ)致度ニ付(下ニ)テハ賣渡人(讓渡人)ノ起草方法書通り成功可致ニ

付)ノ二十二字ヲ加フヘシ

年月日

何府縣北海道何國何郡何町村何番地

當時何府縣北海道何國何郡何町村何番地寄留

債務者(又ハ何々)

何

某印

何府縣北海道何國何郡何町村何番地

當時何府縣北海道何國何郡何町村何番地寄留

債權者(又ハ何々)

何

某印

北海道廳長官宛

注意

- 一 外書ニハ買受人讓受人ノ貸付地等ヲ記載スルモノトス
  - 二 財産調査及戶籍抄本ハ買受人讓受人ノ分ヲ添付スルモノトス
- 第二號書式二

未開地賣拂(付與)(貸付)願

- 一 何國何郡何町村字何々番地(又ハ何原野何線何番地)
- 二 未開地段別 (貸付地ナルトキハ坪數ヲ記スヘシ)
- 三 樹木種類員數
- 四 目的方法
- 五 貸付期間
- 六 見込價格

右北海道國有未開地處分法第何條ニ依リ相當代金(又ハ無償)ヲ以テ賣拂(付與ニ貸付)相成  
度處分法施行細則ヲ遵守シ圖面相添ヘ此段奉願候也

(理由ノ記載ヲ要スルモノハ之ヲ詳ニスヘシ)

何府縣北海道何國何郡何町村何番地

當時何府縣北海道何國何郡何町村何番地寄留

年月日

何 某 印

北海道廳長官宛

注 意

- 一 圖面ハ第壹號書式ノ七ニ依リモノトス
- 二 有料貸付ノ場合ハ法人ノ出願ヲ除クノ外保證人ヲ要スルモノトス

第二號書式三

未開地交換願

何國何郡何町村字何々番地(又ハ何原野何線何番地)

一 未開地 何町何段何畝何歩

何國何郡何町村字何々番地(又ハ何原野何線何番地)

一 民有地 田又ハ何々 何町何段何畝何歩

右北海道國有未開地處分法第何條ニ依リ何々ノ必要ニ依リ交換致度候間處分法施行細則ヲ  
遵守シ別紙兩地ノ圖面及價格調書相添ヘ此段奉願候也



何府縣北海道何國何郡何町村何番地

當時何府縣北海道何國何郡何町村何番地寄留

年月日

何 某 印

北海道廳長官宛

注意

- 一 圖面ハ第一號書式ノ七ニ倣フモノトス
- 二 市街宅地ニアリテハ坪數ヲ掲ケ勾位ニ止ムルモノトス

第三號書式 貸付地返還願(届)

何國何郡何町村字何々番地 又ハ何原野何線何番地)

一 貸付地 何坪 何々目的

但シ明治何年何月何日指合第何號ヲ以テ許可ノ分

二 伐採樹木ノ種類負數

第一號書式ノ二ニ倣フヘシ處分法第四條第七條ニ依リ無償貸付ヲ受ケ豫定ノ目的ニ使用シタルモノ及規程第五條ノ但書ニ依ルモノハ之ヲ要セス

右ノ土地北海道國有未開地處分法第何條ニ依リ貸付相成候處今般何々(事由)有之返還致度就テハ伐採樹木代價辨可致候間御届相成度圖面相添へ此段奉願候也

(届書ニハ「就テヘ」以下ヲ「尤モ本地ハ未ダ何等ノ着手不致候此段及御届候也」トスヘ

何府縣北海道何國何郡何町村何番地

當時何府縣北海道何國何郡何町村何番地寄留

年月日

北海道廳長官宛

注意

何

某 印

第四號書式一

圖面ハ第一號書式ノ七ニ倣フモノトシ部分返還ノ外之ヲ要セス

未開地付與願

何國何郡何町村字何々番地(又ハ何原野何線何番地)

一 貸付地 何坪

此田・畑・牧場、反別何段何畝何歩

但シ明治何年何月何日指令第何號許可ノ分

右北海道國有未開地處分法第三條ニ依リ貸付相成候處今般起業方法ノ通リ成功致候ニ付御  
檢査ノ上付與相成度此段奉願候也

何府縣北海道何國何郡何町村何番地

當時何府縣北海道何國何郡何町村何番地寄留

年月日

北海道廳長官宛

何

某 印

第四號書式二

貸付地部分付與願

何國何郡何町村字何々番地(又ハ何々原野何線何番地)

貸付許可地 何坪 明治何年何月何日指令第何號許可ノ分

一付與出願地 何坪

此田、畑、牧場、段別何段何畝何步

一殘地 何坪

外

明治何年何月何日指令第何號ヲ以テ何程付與許可ノ分

右北海道國有未開地處分法第三條ニ依リ貸付相成候處今般成功ニ付御檢査ノ上付與相成度圖面相添へ此段奉願候也

何府縣北海道何國何郡何町村何番地

當時何府縣北海道何國何郡何町村何番地寄留

何 某 印

年月日

北海道廳長官宛

第五號樣式

標 杭

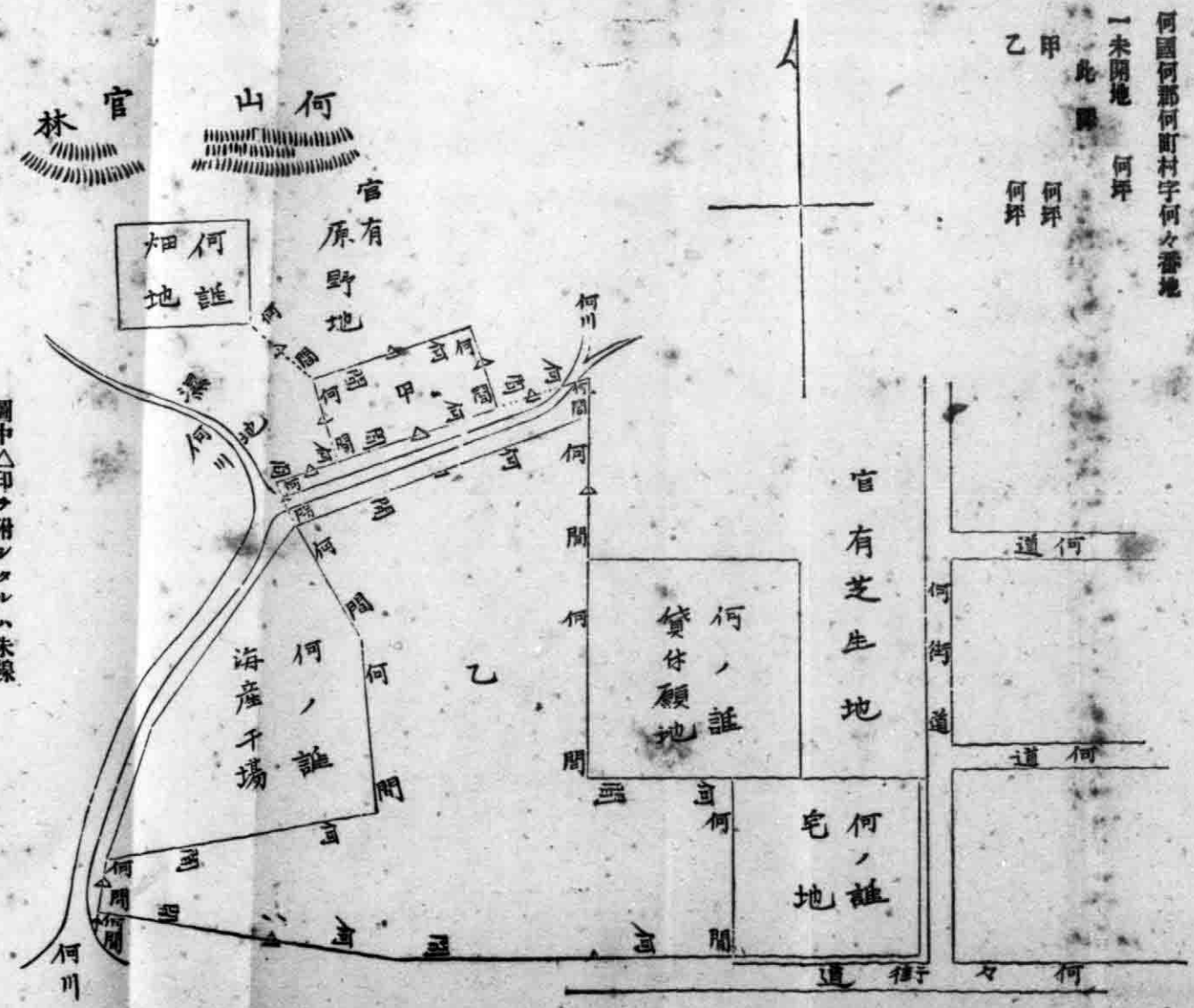
地上二尺以上根入二尺以上

裏	表
是從 南(北)何間何尺	是從 東(西)何間何尺
明治何年何月何日貸付許可 何國何郡何町村字何々番地住所姓名	

注意  
 基點ニ標杭ヲ建設スルトキハ左ノ一項ヲ附スルモノトス  
 何々ヲ基點トス

第一號書式ノ七  
 何國何郡何町村字何々番地  
 一未開地 何坪  
 此 何坪  
 甲 何坪  
 乙 何坪

願人 何 某印



圖中△印ヲ附シタルハ朱線

注意

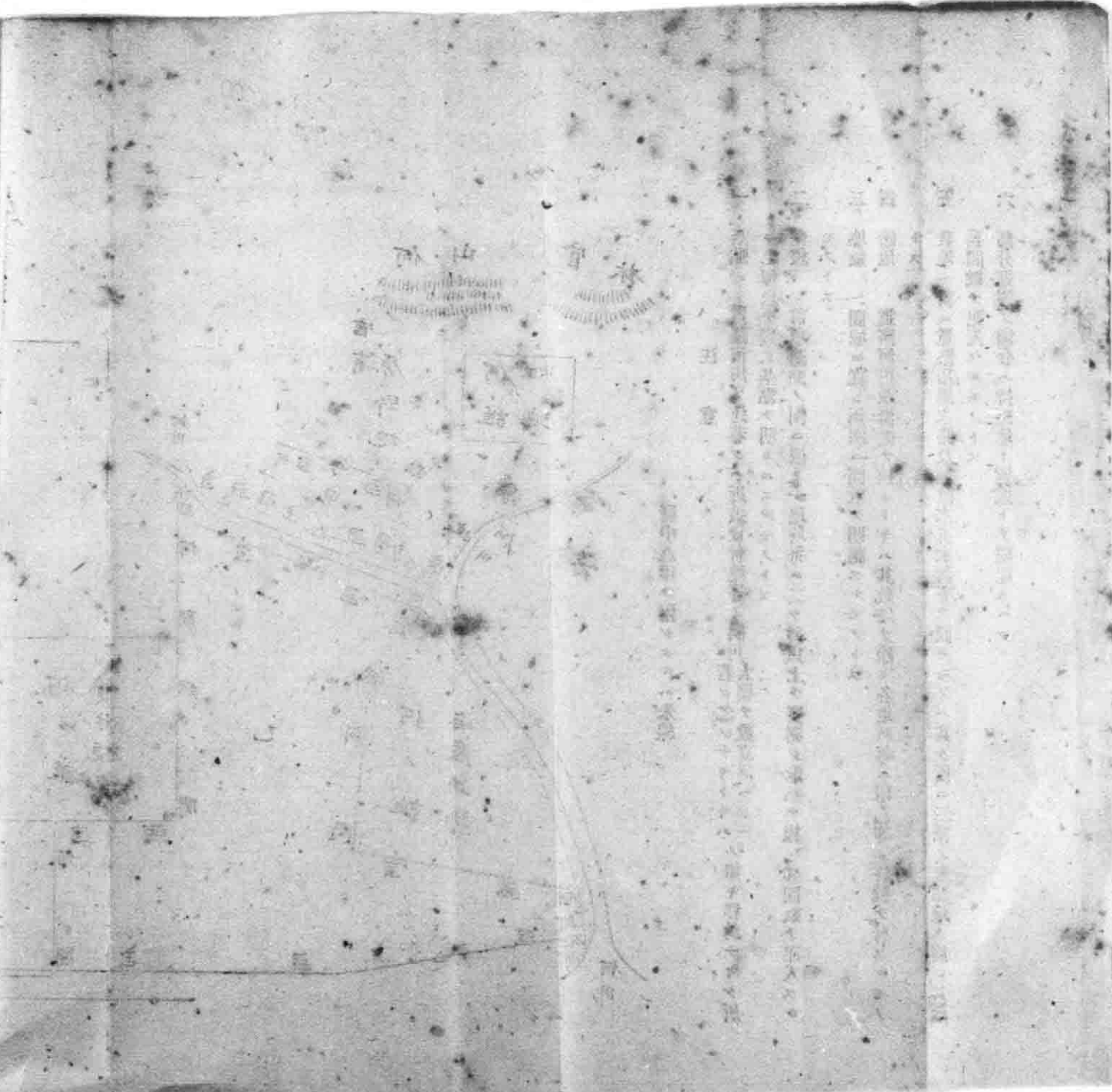
- 一 基點 實路河川ノ辻若クハ近接貸付地等ノ隅角 若シ之レナキトキハノ如キ移動ナキケ所ニ●印ヲ以テ基點ヲ明カニスルモノトス
- 二 繫線 前項基點ノ例ニ依リ一地域毎ニ二ヶ所以上ヲ實測シ朱線ヲ施シ其間數ヲ記入スルモノトス
- 三 地數 間域ニ從ヒ周圍ニ間數ヲ明記スルモノトス
- 四 除地 道路河川及溝渠ヲ狹トキハ其敷地ヲ除キ各地域毎ニ甲乙等ノ符號ヲ付スルモノトス
- 五 敷地ニ新ニ道路用懸水路及灌溉水排水溝等ヲ設ルモノハ其ケ所ニ二條ノ朱線ヲ施シ其長間數ヲ記入スルモノトス
- 六 部分返還ノ場合ハ持續地ト返還トヲ明記スヘシ

Vertical text within a rectangular border on the left side of the page.

Vertical text on the left side of the page, below the border.

Vertical text on the left side of the page, further down.

Vertical text on the left side of the page, near the center.



Two circular diagrams or stamps at the top of the page, containing illegible text.

Vertical text on the right side of the page, arranged in columns.

○告諭

○和歌山縣告諭第一號

近頃稻田に害蟲の生ずると年々にして爲に收納の減すること少からず昨年日高、西牟婁兩郡に於ける三化螟蟲の夥しく生し收穫皆無に爲りたる如きは害蟲の恐るべきことを知るべし故に農業の改良發達を圖る手段は種々あるも一利を興すは一害を除くに如かずといふ古人の金言もあるとなれば害蟲の驅除豫防は決して等閑に爲すべからざることなり

害蟲驅除豫防の内第一に爲すべきとは苗代の時にありて種々の害蟲を別つて二つに大別すれば其一は幼蟲の儘にて年を越すもの螟蟲(ゾイムシ)又はドウムシ(トコムシ)の類にて又其一は成蟲にて年を越すもの浮塵子(ウヅカ)の類なり而して其幼蟲は皆春の季節苗代時に至れば葉或は螟に化し地の成蟲等と共に苗代に集り卵を稻の葉に産み付くるものなるか故に苗代に於て害蟲を捕へ又は其卵を探るは場面狭くして且蟲類の一と所に集まり居る故に之を驅除するには甚だ易くして且功を奏するとも亦多きものなり然るに是迄の如き苗代の形にては害蟲を驅除すると甚だ困難にして不便なれば其驅除豫防の第一に着手すべきとは苗代の作り方を三尺より四尺迄の幅の短冊形に改正すると肝要とす故に本年より之を改め各々の利益を保護増進するとに努むべし

明治三十四年三月十五日

和歌山縣知事 椿 藁 一 郎

○訓令

○和歌山縣訓令甲第二十號

縣報第三十五號 明治三十四年三月廿四日

第三種郵便物認可 五十三

廳	中	一	般
郡	役	所	
警	察	署	
同	分	署	
縣	立	校	
縣	立	院	
縣	立	所	
縣	立	所	

汽車又ハ汽船ノ旅行ニハ別表ノ噸數又ハ海里數ニ依ルヘシ

但別表ハ別ニ願ツ

明治三十四年三月十五日

○和歌山縣訓令甲第二十一號

和歌山縣知事 椿 羨 一 郎

郡	役	所
市	役	所
町	村	場
縣	農	會
郡	農	會
町	村	會

稻田ニ於ケル害蟲ノ驅除豫防ヲ行フニハ苗代ニ於テ行フヲ最モ利益多キモノトス然ルニ從  
來ノ如キ苗代ノ整地法ニテハ到底其目的ヲ達スルヲ難キニ依リ本年ヨリ凡ソ幅四尺ヲ目的

トセル短冊形ニ改良整地セシムルコトニ努ムヘシ

明治三十四年三月十六日

○和歌山縣訓令甲第二十二號

和歌山縣知事 椿 泰一 郎

郡 市 役 所  
町 村 役 場

縣稅賦課規則施行手續左ノ通定メ明治三十四年四月一日ヨリ施行ス  
明治三十四年三月十六日 和歌山縣知事 椿 泰一 郎

縣稅賦課規則施行手續

- 第一條 縣稅賦課規則第十一條第十六條ニ依リ市町村會ニ於テ賦課細目ヲ議定シタルトキハ直ニ市ハ知事ニ町村ハ郡長ニ報告シ並其ノ部内ニ告示スヘシ
- 第二條 町村會ニ於テ戶數對及海面捕魚海面採藻稅ノ賦課細目ヲ議定シ各個ノ課額ヲ定メタル後納稅義務ノ賦感ニ依リ異動ヲ生シタルトキハ町村長ハ郡長ニ報告スヘシ
- 第三條 戶數對ヲ納ムヘキ義務アル者他郡市町村ニ移轉シタルトキハ原地町村長ハ既定賦課額及納稅ノ濟否ヲ記シ直ニ郡長ニ報告スヘシ
- 第四條 郡市長ニ於テ縣稅ヲ納ムヘキ義務アルモノ他郡市ニ移轉ノ報告又ハ届出ヲ受ケタルトキハ既定賦課額及納稅ノ濟否ヲ記シ移轉地ノ郡市長ニ通告スヘシ
- 第五條 町村長ニ於テ縣稅賦課規則施行細則ニ依リ諸届書ヲ受ケタルトキハ事實ヲ精査シ不適當ト看認シタルモノハ直ニ更正ヲナサシメ若シ之ニ應セサルモノアルトキハ其事由ヲ郡長ニ具申スヘシ



第六條 町村制第九十七條ニ該當シ町村稅ヲ免除シタル土地ハ町村長ニ於テ調書ヲ作り郡

長ニ報告スヘシ其ノ異動アルトキ亦同シ

第七條 縣稅賦課規則施行細則第四條ニ依リ付與スル標札ハ左ノ雛形ニ依リ同細則第五條

ニ依リ付與スル標札ハ別ニ定メタル雛形ニ依ル

標札 (木製)

縦五寸

第 號

郡市町村大字番地

氏 名

(營業地何々)

○ 業 目

烙 印

幅三寸

明治何年何月何日

備考住居地ト營業地ト異ナルモノハ氏名ノ冒頭ニ營業地名ヲ記ス

○和歌山縣訓令甲第二十三號

郡 内 務 部  
役 務 所

縣 金 庫  
明治三十三年內務省令第七號第二十三條ニ依リ行フヘキ縣金庫ノ定期檢査日ヲ毎年六月三十日ト定ム

明治三十四年三月二十日

和歌山縣知事 椿 葉 一 郎

○和歌山縣訓令甲第二十四號

郡 役 所  
警 察 署  
同 分 署  
同 分 署  
縣 立 學 校  
同 分 校  
縣 立 病 院  
縣 立 測 候 所  
和歌山縣旅費規則左ノ通定メ本年四月一日ヨリ施行ス

但明治三十年十一月訓令第四百二十三號ハ廢止ス

明治三十四年三月二十二日

和歌山縣知事 椿 葉 一 郎

和歌山縣旅費規則

第一條 縣費支辨ニ屬スル吏員公務ヲ以テ旅行スル時ハ本規則ニ從ヒ順路ニ依リ旅費ヲ支給ス

第二條 旅費ハ之ヲ分テ四等トシ別表定ムル所ニ依ル其ノ支給方法ハ內國旅費規則ノ規定

ヲ適用ス

第三條 和歌山市外ニ在任スル二等旅費ヲ受クヘキモノニシテ和歌山市ニ出張宿泊スル場合ハ日常宿泊料ニ限リ管外旅費ヲ支給ス

第四條 巡査持区内ヲ巡回スル時ハ普通ノ旅費ヲ給セス宿泊シタル時ニ限リ夜數ニ應ジ宿泊料ヲ巡査部長ハ四十五錢其他ノ巡査ハ四十錢ヲ支給ス但特別用務ノ爲メ臨時出張スル場合ハ此限ニアラス

巡査持区内ニシテ地勢上渡航ニアラサレハ至リ難キ場所ニ巡回スル時ハ渡航賃ノ實費ヲ支給スルコトヲ得

第五條 縣費支辨ニ關スル土木吏員、檢査委員、雜種檢査員、職業巡回教師ノ旅費ニ關シテハ各別ニ定ムル所ニ依ル其他特別ノ規定アルモノ亦同シ

等	級	區分	汽車賃	船賃	海里	車馬賃	一里	日當	一日	宿泊料	一夜
一等	委任官及委任官補者、縣立和院長及副院長	管内	五錢	二付	一付	二十錢	八十錢	一圓三十錢	一圓三十錢	六十錢	
二等	判任官及判任官補者、衛生技手、病院醫員及事務長	管内	四錢	二付	一付	十二錢	一圓	一圓五十錢	一圓五十錢	六十錢	
三等	巡查、雇員、病院事務員	管内	三錢	二付	一付	九錢	三十錢	一圓	一圓	四十錢	
四等	小使	管内	二錢	二付	一付	八錢	三十錢	一圓	一圓	四十錢	
		管外	二錢	二付	一付	陸路雜費一里ニ付六錢	三十錢	一圓	一圓	六十五錢	

明治三十三年五月八日

第三種郵便物認可

(每月四月十四日廿四日三回發行)